

ちょうふくしょう かん かない せいり かなか ゆうきぶろじえくと
(6) 重複障がいに関する課題の整理に係る有期プロジェクトについて

かない がいよう かないとお ほんごう
【課題の概要】(課題通し番号7、27、28、44、52、60)

- ちょうふくしょう したいふじゆう ちてきしょう なた つうしよさき にゆうきよさき み
 ・ 重複障がい(肢体不自由・知的障がい)をもつ方の通所先や入居先がなかなか見つからない
- いりようがた しよーと いりようがた たいしよく ほうしゆうたんか ひく う い
 ・ 医療型ショートは医療型の対象ではないと報酬単価が低く、なかなか受け入れてもらえない。また、重心判定や療養介護が付いていないが、状態像はそれに近い人を受け入れてくれる短期入所が少ない。
- しんたい ちてき ちょうふくしょう なた ぐるーぷ ほーむ さが み
 ・ 身体・知的の重複障がいがある方がグループホームを探していたが見つからない。また、利便性のある場所がない
- おや ほんにん ざいたくせいかつ いじ じゆうしん たんきにゆうしよ ふそく
 ・ 親と本人が在宅生活を維持できる重心の短期入所が不足している
- いりようがた たんきにゆうしよ いりようがた で い さーびす りよう ひつよう じょうたいぞう じゆうしんはんてい
 ・ 医療型短期入所や医療型サービスの利用が必要な状態像だが、重心判定がつかないために利用できない。
- ざいたくじゆうしんしんしんしやう じ しや しえんたいせい こうちく
 ・ 在宅重症心身障がい児・者の支援体制の構築

ぶろ
 まちプロと

せいり
 して整理

きーわーど
★キーワード

- じゆうきょう きようきゆう ばらんす ほんにん かぞく あんしん かくほ
 ・ 需要と供給のバランス ・ 本人、家族の「安心」の確保
- しえん こべつせい りかい まな きかい いりようてきけ あか かくほ けんしゆう
 ・ 支援の個別性(理解、学ぶ機会) ・ 医療的ケアの確保、研修
- まん ばわー ふそく ほうしゆうたいけい みなお じぎょうほんたいしゆうへん さぼーと
 ・ マンパワーの不足 ・ 報酬体系の見直し ・ 事業本体周辺のサポート

げんざい とくく たとしどう くふう
★現在の取り組みや他都市等の工夫

- じゆうしやうしんしんしやう しやうけいれそくしんじぎやうどう あんけーと けつこ さいっぽろし
 ・ 重症心身障がい者受入促進事業等、アンケート結果(札幌市)
- かくしゆせんこうちやうさけんきゆう じりつしえんきょうぎかい どうよう ぶかいかつどう
 ・ 各種先行調査研究、自立支援協議会における同様の部会活動
- あおばえん にしのみやし とも よこはまし
 ・ 青葉園(西宮市) ・ 朋(横浜市)
- ほうもんかんごすてーしよん ばんふれつと あさひかわし
 ・ 訪問看護ステーションパンフレット(旭川市)
- よこはましじゆうしんれんけいきやうりよくいりようきかんめいぼ
 ・ 横浜市重心連携協力医療機関名簿
- きんきゆうかいごにんはけんせいど せたがやく とうきやうとえぬあいしーゆー たいいんそくしんも での じぎやう
 ・ 緊急介護人派遣制度(世田谷区) ・ 東京都NICU 退院促進モデル事業
- じゆうしやうしんしんしやうがいじしや らいふさいくるべつけんとうしーと
 ・ 重症心身障害児者のライフサイクル別検討シート

かだいかいけつ む ほうこうせい
【課題解決に向けた方向性】

- ゆうきげん ぶろじえくと たあ かない せいり さい いか ちゆうい
 有期限のプロジェクトを立ち上げて、課題を整理していく。その際には以下に注意する。
- ちょうふくしょう さまざま しゆるい いまあ かない ゆうせんてき せいり
 ・ 重複障がいにも様々な種類があるため、今上がっている課題から優先的に整理する
 - じったいちやうさ ないやう まとはず せいさ じっし
 ・ 実態調査の内容が的外れにならないようよく精査して実施する
 - ねっく いるやうかんけい ぶぶん しようけんとう
 ・ ネットとなるのは医療関係とのつながり、この部分をどうするか要検討
- あせすめんと きよたくかいごじぎやうしよおよ ほうもんかんごすてーしよん じったいちやうさ じっし
★アセスメント～居宅介護事業所及び訪問看護ステーションの実態調査を実施
- ぶらん にんぐ げんざい じぎやう せいさ けんとう おこな しんきじぎやう けんとう
★プランニング～現在の事業の精査・検討を行いつつ、新規事業の検討も

ちょうふくしょう かん かだい せいり かか ゆうきぶろ じえくと
(6) 重複障がいに関する課題の整理に係る有期プロジェクトについて

かだい がいよう かだいとお ほんこう
【課題の概要】（課題通し番号7、27、28、44、52、60）

- ・ 重複障がい（肢体不自由・知的障がい）をもつ方の通所先や入居先がなかなか見つからない
- ・ 医療型ショートは医療型の対象ではないと報酬単価が低く、なかなか受け入れてもらえない。また、重心判定や療養介護が付いていないが、状態像はそれに近い人を受け入れてくれる短期入所が少ない。
- ・ 身体・知的的重複障がいがある方がグループホームを探していたが見つからない。また、利便性のある場所がない
- ・ 親と本人が在宅生活を維持できる重心の短期入所が不足している
- ・ 医療型短期入所や医療型サービスの利用が必要な状態像だが、重心判定がつかないために利用できない。
- ・ 在宅重症心身障がい児・者の支援体制の構築

ぶろ
 まちプロと
 せいり
 して整理

きーわーど
★キーワード

- ・ 需要と供給のバランス ・ 本人、家族の「安心」の確保
- ・ 支援の個別性（理解、学ぶ機会） ・ 医療的ケアの確保、研修
- ・ マンパワーの不足 ・ 報酬体系の見直し ・ 事業本体周辺のサポート

げんざい と く た と し どう く ふ う
★現在の取り組みや他都市等の工夫

- ・ 重症心身障がい者受入促進事業等、アンケート結果（札幌市）
- ・ 各種先行調査研究、自立支援協議会における同様の部会活動
- ・ 青葉園（西宮市） ・ 朋（横浜市）
- ・ 訪問看護ステーションパンフレット（旭川市）
- ・ 横浜市重心連携協力医療機関名簿
- ・ 緊急介護人派遣制度（世田谷区） ・ 東京都NICU退院促進モデル事業
- ・ 重症心身障害児者のライフサイクル別検討シート

かだいかいけつ む ほうこうせい
【課題解決に向けた方向性】

しない げんじょうはあく きょたくかいかい じぎょうしよおよ ほうもんかんごすてーしよん じつたいちようさ じつし
 市内の現状把握として、居宅介護事業所及び訪問看護ステーションの実態調査を実施した
 けつか じぎょう まな きかい きかい そうだん きかい ひつよう
 結果、どちらの事業においても、「学ぶ機会」「つながる機会」「相談できる機会」が必要と
 されていることがわかった。そのため、引き続き連携といったソフト面を進めるとともに、
 じねんど はーどめん ふく いか ほうこう と く すす
 次年度はハード面も含めて、以下の方向で取り組みを進める。

- ① 地域における多職種が集まる場の開催、訪問看護ステーションのリーフレット作成
- ② 受け入れ事業所の拡充に向けたハード面の検討